

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2011年8月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門編修長に就任して

Message from a New Editor in Chief, Industry Applications Society

電気学会 産業応用部門 編修長
竹下 隆晴
Takaharu Takeshita

Editor in Chief, Industry Applications Society, IEEJ



部門改革が、堀洋一前部門長に引き続き、玉井伸三部門長のもとで推進されている中、論文委員会においても新たな取り組みが大石潔前編修長のもとで実施されてきました。このような状況の中で、編修長に就任することになり、身の引き締まる思いでいます。論文委員会は、会員の皆様と共に、会員に魅力ある論文誌の出版を目指しています。会員の皆様からのご意見、ご支援をよろしく願います。

論文誌において、投稿論文の早い査読と掲載、論文の広報と検索、論文掲載料の無料化が重要だと考えています。魅力ある論文誌に向けた電気学会および部門論文委員会の最近の活動および今後の方針を紹介させていただきます。

1. 論文委員会グループ構成の改編

産業界の動向に対応させるように部門の技術委員会改革を進め、技術委員会を基礎と応用に色分けしました。この技術委員会の改編に伴い、各技術委員会からの推薦で構成される論文委員会論文幹事についても、従来のD1～D3グループを図1のD1～D5グループの5グループに改編しています。D1～D3グループが基礎技術委員会、D4、5が応用技術委員会にそれぞれ対応しています。今年度は移行期間とし、2012年度から5グループの本格運用を目指しています。

- D1: 半導体電力変換
- D2: 産業計測制御
- D3: 回転機, モータドライブ, リニアドライブ
- D4: 自動車, ITS, 家電・民生
- D5: ものづくり, 次世代産業システム, 交通・電気鉄道, 生産設備管理, 公共施設

図1 論文委員会のグループと技術委員会の対応

2. 論文査読プロセスの変更

論文査読を担当している論文委員の意見交換会を毎年部門大会期間中に開催しています。そのご意見の中に査読プロセスに対する次の要望があります。投稿論文の1回目査読は2名の論文委員で担当し、その再提出論文の2回目査読は1回目査読の1名で査読し、もう1名の論文委員には

ご連絡を差し上げていません。論文査読の経験を深めるためにも、2回目査読を担当しない論文委員に、他の1名の査読結果を公開してほしいとのご要望です。現状の電子査読システムを変更せずに対応する方法として、2011年1月から2012年12月までの2年間、試行的に2回目査読も原則として2名の論文委員で査読することでお互いの査読結果がわかるように査読プロセスを変更しています。試行結果を検証し、より良い査読プロセス構築を検討していきます。

3. 論文誌の電子化

今年の5月号論文誌よりWebによる電子論文閲覧のみで、従来の冊子体の配布を取りやめています。Webを見なければならぬためご不便をおかけしています。D部門において、従来より論文掲載料を無料にしたいとの方針があり、論文誌の電子化により掲載料を従来の約65%に引き上げています。無料化にはさらなる努力が必要ですが、論文誌の電子化にご理解いただければと存じます。

4. 論文検索システム

電子論文誌では論文検索機能の充実が重要です。非常に多くの論文の中から必要な論文を、簡単に探し出せる機能が必要になります。論文誌ごとの検索機能とは別に、試験運用版ですが電気学会誌と論文誌を統合した「電気学会論文検索サービスβ版(<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/jst/>)」が電気学会Webのホーム下部にありますので、お試し下さい。電気学会では、研究会論文などの口頭発表論文を含めた便利な検索システム構築に向けて検討しています。

5. 論文誌のグローバル化

D部門主催国際会議の論文特集号など、英語論文も論文誌に掲載されています。産業応用関連技術はグローバル化されており、英語論文を部門から国際的に発進するために、たとえば、英語論文と日本語論文を別々の論文誌とするなどの新たなしくみが必要です。海外の研究者や技術者にとって魅力あるD部門とすることで、海外会員や海外からの論文投稿を増やすことが、重要になっています。このようなグローバル化の取り組みについても検討していきます。